



ペテヤクテヤ カナダ人

英語指導助手/アシュリー・ペトゥルツチ

Happy Birthday Canada!

Most countries have an official 'birthday', which often signifies independence, unification, culture, history, language.

Every year, Canadians celebrate the birth of their country on July 1st. This national holiday was established in 1879, yet public celebrations did not begin until around 1980. At this time, the Canadian government began holding large celebrations in Canada's capital city, Ottawa. The festivities involved fireworks, music, art displays, and speeches by government officials. As time passed, July 1st became an event celebrated across the country, with various events happening in Canada's major cities.

The nearest equivalent to Canada Day in Japan is National Foundation Day on February 11th. On this day, customs include raising the Japanese flag and contemplating one's Japanese citizenship. However, National Foundation day is a somewhat muted celebration, as war-time events often overshadow the significant contributions that Japanese culture offers the world. Perhaps then, the opportunity exists to reclaim this day as one of celebration, allowing for the exploration of Japan's wealth of culture and tradition.

ハッピーバースデー カナダ!

正式な誕生日を持つ国が多いですね。独立や統一、文化や歴史、言語などを象徴する記念日です。

カナダでは毎年7月1日に国の誕生を祝います。カナダ・デーと言います。制定されたのは1879年ですが、一般的になったのは1980年ころのこと。政府が首都オタワで大々的にお祝いを始めました。花火や音楽、飾りと政府役人のスピーチです。のちにこれが国を挙げてのイベントとなり、大都市でいろいろな催しが行われるようになりました。



日本でこれに相当するのが2月11日の建国記念日ですね。国旗を揚げたり日本国民であることに思いをめぐらせたりするでしょう。でも戦争のことがあってか、この記念日はやや控え目なようです。

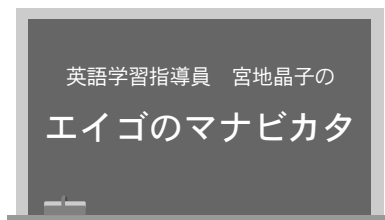
日本文化の世界への貢献を考えたら、この日は日本の文化や伝統の豊かさをもっと祝福する日であっていいと思います。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

世界に知られた日本文化といえば「漆」。英語ではそのものずばり「japan」と言います。「テリヤキ」「カラオケ」「オタク」も有名。「ツナミ」もスマトラ島沖地震のとき一気に広まりましたね。津波の現象を表す言葉が他にないそうです。他には「シュリーミ」。何かと思ったら、魚のすり身。フランス人に人気です。そしてなんといいっても誇れるのが「モットイナイ」という言葉と精神。ノーベル平和賞受賞のケニア人女性が、この日本の素晴らしい精神に感動して「モットイナイ運動」と世界に紹介しました。

7月は写真の町のイベントがある月です。みなさんは写真の町のイベント、特に東川賞をどう思われるでしょうか。実は私は自分が関わることにならるまで全く関心がありませんでした。初めて関わった写真家はフランス人。その強烈な写真正視を嫌だと思つたものです。でも、その写真家の作品に対する気持ちを翻訳し、通訳しているうちになにかしら伝わってくるものがあり、最後はその写真を大事なものとしてみるようになりました。



第39回

言い分を聞く

その後も韓国人、インド人の写真家と、その度ごとに作風の違いに戸惑いますが、事前にその人の言ったことを拾い、世間の批評を読む、来町の時に通訳をするうちに、その人がその写真撮らずにいられたかつた気持ち分る気がして、写真に対する見方が変わりました。

さて、今年の受賞作家はタイ人、マニット氏。その作風たるや!!

シリアスなモノクロ写真にいきなりピンクのスーツを着た中年のおじさんがスーパーマーケットの買い物カートを押して立っている、というもの。

第一印象はフザケテル。さあ、一体なぜそんな写真を撮るのか。作家の言い分は？今年も体当たりで聞いてみるしかない。

世界で高い評価を受ける彼もまた英語を話すでしょう。話しかけてみませんか。